

秋田の風

日銀秋田支店長コラム

冬の間、県内各地を巡り、それぞれにユニークで心温まる祭りや行事に出会うことができ。男鹿のナマハゲ、大日堂舞楽、大館アメツコ市、犬っこまつり、川を渡るぼんでんに横手のかまくら……とても書ききれない。酒蔵開放では、まるでバーゲン会場のような高揚感に包まれながら、歴史を感じる建物を前に搾りたてのみずみずしいお酒をいただいた。

秋田は冬の観光振興が課題と、いった話をよく聞く。確かに、各地で行われた祭りや行事をみると、開催日が重なることで観光需要を取りこぼしている部分や、物語性を持たせつつ周辺地域の行事を集約して内容を充実

冬の観光振興



「褒めて伸ばす」が大切

ユニークさがあり、今年は雪不足で一部規模の縮小などがあったにもかかわらず、県内外から多くの人が訪れていた。

外国人がその珍しさに目をつけ訪れ、自ら交流サイト（SNS）などで発信し始めた段階なのだろう。

2023年の日本の名目国内総生産（GDP）が世界4位に落ちた。1968年に西ドイツ（当時）を抜き米国に次ぐ世界2位となったが、10年に中国に抜かれ、今度はドイツに抜かれた。1人当たりのGDPでは、

先進7カ国の中で日本は既に最下位。日本は追われる立場から、今や完全に追う立場にある。

さすれば、集客力がもっと上がりそうだと感じる部分はある。地域での担い手不足もみられる中、祭りや行事の本来の目的も考慮しながら、工夫できるころはした方がよい。

とはいえ、秋田の冬の祭りや行事の多くは、そうした課題を忘れさせるほどの魅力にあふれている。そのままの姿で、既に住民だけでなく観光客も楽しめ

中でも欧米人の姿が以前より目立つようになったといった話も聞かれた。筆者も、年末年始にフランス人の友人を連れて県内を巡ったが、相当な刺激があったように、また秋田を訪ねるそう。海外から見ると、京都の情景は各種メディアでよく目にしても、秋田の冬を紹介したものはない。秋田の冬は、訪日観光全体から見れば、一部の

例が適当か自信はないが、職場でも、完璧を目指してできないことや課題を指摘し改善を図るアプローチがいいのか、できることやユニークなことを褒めてそれをさらに伸ばす方がいいのか、悩むことがある。しかし

褒めて伸ばすことのように思える。われわれ県民自身が、それぞれユニークで人の温かみを感じ、おいしさも味わえる県内各地の祭りや行事に興味を持ち、積極的に訪ね、売っているものを試してみる。そして県外に自信を持って発信し、できれば県外の友人・知人を秋田の冬にも誘うことから始まるのではないだろうか。

観光客が増えれば、主催者や行政を含めた関係機関の取り組みも加速しやすい。ただ、冬は雪で道路が狭くなるなど、人が集まり過ぎると対応が難しい面もある。客数だけを追うのではなく、少しでも付加価値の高い冬の観光を味わってもらえるように考えていきたい。

今年、開催日が重なって訪ねられなかった祭りや行事には、来年ぜひお邪魔したい。

（片桐大地・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉